

議会だより

# さんのへ

## 第189号 (令和3年8月17日号)

- P2 ..... 「おじゃまします! 町のあれこれ」
- P4 ..... 一般質問(6議員)
- P10 ..... 議決結果一覧
- P11 ..... 議案審議
- P12 ..... 議会活動レポート
- P14 ..... 陳情審査結果

### 難攻不落

7月4日「お城へ行こう! in 三戸城 ~石の城を歩く~」が開催され、八戸市から22名が参加し、担当者の案内により城跡の要所を徒歩で巡り、戦国時代末期の城の構造や石垣などの遺構の役割について学びました。



新企画!

～議員が直接取材にうかがいます!～

# 『おじゃまします! 町のあれこれ』

今回は令和3年度の町の事業を取材して、サービスを受ける皆さんのようすや担当課が抱えている課題、今後の抱負についてお伝えします。

「武者溜」から敵の侵入が丸見えになるスポット。当時の石垣の一部も残る。上部に甲冑姿の女性の見張り役が現れ参加者は騒然。ここからは戦の最中、という設定に。



## 第1回

# 地域学習サポート事業

(三戸町教育委員会事務局)

【取材班】「地域学習サポート事業」の趣旨と目的は?

町教育委員会史跡対策室

【野田尚志 班長】

地域の歴史や文化の保護と活用を推進するため、地域に残る歴史・文化的遺産を活用して郷土に対する理解を深めてもらうために実施しています。対象は三戸の歴史や文化、自然等について学習する団体などで、特に児童・生徒へは「発見する感動」を提供できるような体験プログラムに力を入れています。

そこで取材班は「地域学習サポート事業」の一環として開催されたツアーに同行しました

7月4日、小中学生のための城歩き講座「お城へ行く! in 三戸城」石の城

を歩く」(三戸町教育委員会主催、八戸市博物館共催)が開催され、八戸市から22名の小学生と保護者が来町し、発掘調査担当者の案内により城跡の要所(役場駐車場、綱門跡、鳩門跡、樺門跡、資料館、大門跡、本丸跡)を90分かけて徒歩で巡り、戦国時代末期の城の構造と石垣などの遺構の役割について学びました。

なお、この講座は2部構成で、7月18日には、「お城へ行く! in 根城」土の城を歩く」(八戸市博物館主催、三戸町教育委員会共催)が開催されました。同じ南部氏である三戸町と八戸市の児童・生徒が2つの城を訪れ、それぞれの城の特徴や違いに触れることで、郷土の歴史への興味や関心を高めていくことを目的としています。



「資料館」では本物の火縄銃を持って「意外と軽かった」という声も男子は「温故館」に保存されている兜や甲冑に「すごい」「かっこいい」と瞳を輝かせます。



「綱門」ではクイズも出題されました。道を見えづらくクランク状に曲げた柵形や、武者溜といった敵の侵入から城を守るための遺構の役割を聞いて、参加者はワクワク。

「大門跡」では、検出された門礎石から推定される門の大きさ（幅約9・5m、奥約5m、扉の幅約5m）をイメージして驚きの声が上がります。



案内員たちによる、甲冑の装いやクイズなど工夫を凝らした説明を受けながら、親子参加型体験学習を歓喜の声とともに楽しみました。



## ★参加者の感想★

▼先生に、歴史の話と一緒に騎馬戦の陣の組み方を教えてもらい、戦国時代の歴史が好きになり、身近な三戸城を知らなかったので参加した。自由研究のテーマにした。  
(5年生男子)

▼図書委員会で、本を読んでいるうちに歴史がおもしろくなった。弘前城は知っていたが、三戸にもお城があり、殿様がいたのは知らなかったので驚いた。かっこいい。  
(5年生男子)

▼子どもはバスで出かけることを楽しみにしていた。自分もむかし来たことがある城山に、歴史の話を聞きながら登れるのを楽しみに参加した。  
(保護者)

▼温故館の本物の甲冑や兜の形がすごい。武者溜りや枳形について、甲冑を着た人たちが再現したりクイズを出したりしながら説明してくれたので、戦で攻められないための工夫が分

かりやすくイメージできた。  
(5年生男子)

▼昨年、根城跡を見学してから城への関心が芽生えたようで、近場の三戸の山城も見学しようと思った。  
(保護者)

▼『かたつ』を読んで歴史に興味が出た。テレビで見る城を守るための工夫を実際に見ることができてすごいと感じた。  
(4年生女子)

▼「大門」があるなら「小門」もある？2トンもある石垣の石をどうやって名久井岳から城山に運んだのか？など、もっと知りたいことが増えた。  
(5年生男子)

▼根城の城跡は平らな場所だったが、山の上にある三戸の城は登り口から本丸まで、守るための仕掛けがたくさんあって、本当に戦国時代があったんだなと思った。

▼これを自由研究の題材にしてくれれば、親もうれしいし、家族で盛り上げられる。  
(保護者)

## ツアーを終えて

【取材班】ツアーが終わりでしたが、手応えは？

野田 班長 お城という1つのテーマで、親子の会話が盛り上がりつつある様子が見え、城山は三戸町にとって観光資源であるだけでなく、大人も子どもも歴史や植物を学べる教材の宝庫として活用できる確かな手ごたえがありました。ツアーのあと、三戸町内で食事や買い物をして帰る方もいたと思うので、町の振興の一助にもなつたと思います。

【取材班】今後の課題や抱負は？

野田 班長 今回のツアーには残念ながら町内児童の参加がありませんでしたが、将来的に三戸の子どもたちには、三戸に生まれ育ち、誇りにできることのひとつに城山の存在があること、三戸南部家の殿様の名前や、向鶴の意味を語れるよう育ってほしいと思います。

今後の地域学習サポート事業の中で、いかにして地域の皆さんに城山に眠る誉れ高き

歴史の価値に関心を抱き、郷土への愛着と誇りを深めていただけるか、その仕掛けづくりが今後の課題です。

## 取材を終えて

参加した皆さんへのインタビューで、今回のツアーの意義の大きさと可能性が確認できました。議会の三戸町活性化対策特別委員会でも、城山の歴史的価値を活かした活性化を調査研究中です。現在の城山は、春まつりや遊び場として活用されているイメージが強いですが、町内の小中高生や保護者、各種団体やグループの皆さんが「地域学習サポート事業」を大いに利用して、城山をはじめ広く三戸町に眠る歴史への関心を高めていけるよう、今後の取り組みに期待しています。

## 私たちが取材しました!

三戸町議会広報編集委員



写真  
藤原 文雄



文  
栗谷川 柳子



映像配信

# 一般質問

久慈 聡 議員



## Q1 コロナ禍の三戸町への影響について

国内で新型コロナウイルス感染症が始まったが、今後、コロナウイルスが終息に向かうのか、これからの私たちの生活がどのように変化していくのか予測しづらい状況の中で、町長は三戸町としてどのように考え、行動を起こしていくのか質問します。

①当町での、新型コロナウイルスの影響による倒産、解雇等の現状把握はできているか。

A 松尾町長

経営破綻した事業所は町内では確認されていない。解雇された方は4人把握している。

②新型コロナウイルス対策による支援金等は、将来的に今の子どもたち

ちの負担になると思うが、支援金を利用した現在までの経済対策と、その理由は。

A 松尾町長

昨年度、マスクや次亜塩素酸水生成器、三戸中央病院の感染症対応備品の購入、役場施設の感染防止対策、町内事業所への事業者持続化支援金、消費喚起のプレミアム商品券発行事業など52の事業を実施した。これらの中には単独財源を見込んでいたものを交付金事業に充てたものもあり、将来的な負担を軽減したものである。

③今後を見据えた、今だからこぞできる三戸町独自の支援は考えているのか。

A 松尾町長

新型コロナウイルスが終息に向かい、人流が戻った際の観光面の充実と関係人口拡大のため、「11ぴきのねこのまちさんのへ」エンジョイアプリの製作、コワーキングスペースの設置、温故館ライトアップ、城山公園整備などの事業を実施している。

## 再質問①

今必要なもののほか、将来的に必要なものもやっていくわけ

だが、国から入ってくる交付金は、どのように話し合われ、決定されたのか。

A 松尾町長

私を含めた三役および担当課長でどういう支援をすべきか調査を行ったうえで仕組みを考え、事業展開している。

やみくもに出して不用額とならないよう、制度の設計がきちんとできたものを議員に諮って進めてきた。

## 再質問②

昨年度は国の交付金があったため多くの支援ができたが、今年度もあるかどうかかわからない状況下で、交付金なしでも支援できる準備をしているか。

A 松尾町長

令和2年度から3年度に変わる段階で、三次補正として出された分の残額を繰り越して支援を検討中である。国からの今後の支援について確かなものは来ていないが、防災関係や過疎債も国で新たに設計されており、突然それが切れるということはない。それら町が使えるものを十分活用して基金も含め対応していく。

④子どもたちの心のストレスの把握はできているのか。またその対策は行っているのか。

A 慶長教育長

町内小中学校では、いじめに限らず、学校や家庭での困りごとや心配事も尋ねるアンケートを行っており、今のところコロナ禍が原因の変化は見られないが、引き続き定期的に行い早期発見に努める。

## 再質問①

現在三戸町から新型コロナウイルスが出ていないが、三戸小中学校の児童生徒で何らかのストレスを抱えている子はどのぐらいいるか把握しているか。

A 教育委員会事務局長

コロナのストレスについての質問ではないが、5月実施のアンケート結果によると、学校に悩みがあるかとの問いに対し、あると答えた小学生は全体の14.6%、中学生は2.7%。また、家庭の悩みがあると答えた小学生は10.2%で、中学生については1.1%であった。学校、学級は楽しいですかとの問いには、小学校は99.4%、中学生は97.9%がとても楽しい、まあまあ楽しいという回答

## まとめ

をしており、全国に比べストレスは小さいと考えている。

コロナ禍の家庭や親も、子どもとのストレスの原因になっていると思われることから、親への支援も必要ではないかと感じる。

だからこそ、三戸町独自で考えるきめ細やかな配慮・支援体制、対話で町民の思いを吸い上げる仕組みづくりや、コロナにより止まった時間を動かす方法を町民と一緒に考えることが必要なのではないか。



テレワークで利用できる  
コワーキングスペース SANNOHE



千葉 有子 議員



Q1 児童・生徒の健康と教育環境について

当町の児童・生徒の健康状況と教育について、6点質問します。

- ①全国的に視力1・0未満の小中学生が増加傾向にあるようだが、当町児童・生徒の実態と対応は。
- ②当町では学年が進むごとに未処置歯が多いようだが、当町児童・生徒の実態と対応は。
- ③5年生男子に肥満傾向が多いようだが、原因と対応は。
- ④当町児童・生徒のネット依存実態の把握、授業での指導、家庭との連携による対応は。
- ⑤立志科で地域人材の活用が掲げられている。これをどう捉え、実施するのか。
- ⑥新教育長として、当町児童・生徒の学力の現状認識と、学

力向上への考え、町全般の教育の展望は。

A 慶長教育長

- ① 全体的に大幅な増減はない。学校の健診で視力1・0未満の場合や眼科的疾患等指摘された場合、保護者に結果通知と医療機関受診勧奨を行い、治療後は医療機関から報告をいただき、児童・生徒の健康をフォローしている。
- ② 虫歯の未処置は小学校では低学年ほど多いが、ここ10年は減少傾向。中学校では年度でばらつきがある。対応は視力と同様のフォローのほか、歯みがき指導、虫歯ゼロ表彰、医療費無償周知による中学卒業までの治療終了を指導している。
- ③ 肥満は小学校で若干増加傾向で中学校では横ばい。ご指摘の5年生男子に多い原因は、思春期の脂肪細胞の増加、スポーツクラブ未加入による少ない運動量が考えられる。対応は他の健診同様のフォローのほか、個別指導で自己管理意識向上を図っている。
- ④ ゲームやテレビ、ネット動画の視聴時間などを学校で調査しており、注意喚起を行っ

ている。

- ⑤ 例えば地域の食や自然、文化などの知識や技能を持つ方々の近い先輩などをゲストティーチャーとして招き、学習内容への気づきや定着に生かしている。
- ⑥ 標準学力テストでは、ほぼ全ての学年で全国平均を上回っている。また知能指数から期待される偏差値に到達しない子の比率も小さく、教師の指導が確かな学力の定着につながっている。

高校入試偏差値も上昇傾向で、自ら望む進路を達成する生徒も増えている。学力向上に向け、町小中一貫教育要領のつとり、1年生からの英語など独自性のある教科やICTなど取り入れ、個別最適化学習の展開を進める。三戸町は町民憲章に「教育の町」を標榜し、多くの成果を上げた。今後も学校、家庭、地域社会が協力し、町民一人ひとりが健康で、ふるさとに生きがいを感じられる教育の推進に努める。

Q2 家庭教育支援について

子どもに関する課題は多様化し、家庭教育支援は喫緊の課題と考えることから次の3点を質問します。

- ①共働き世帯の増加により、乳幼児保護者世代からの家庭教育の普及啓発がとて重要と考えます。関係機関と連携した家庭教育への取り組み等考えられないか。
- ②家庭教育の状況把握調査を文部科学省からの「家庭教育手帳」や当町の家庭教育のめあて等を基に作成し、調査を実施する考えはあるか。
- ③家庭教育支援は、親を元気にする支援でもある。社会教育委員の提言、若い親向けの公民館講座の充実等、公民館の役割について町の見解は。

A 慶長教育長

- ① 町では、町内の保育園、児童館、幼稚園、小中学校が、保護者を対象に家庭教育の知識や保護者の役割等に関する学習機会を提供し、家庭での教育力の向上を目的とした家庭教育学級の開催を支援して

いる。今後も乳幼児期からの家庭教育の重要性や基本的な生活習慣の育成に関する普及啓発を図り、家庭教育力向上に努める。

- ② 議員ご指摘の「めあて」等は作成していないが、県教委が保護者を対象に実施した家庭教育支援の充実のための実態調査を通じ、家庭教育支援の充実に努める。
- ③ 公民館では家庭教育学級の開催や青少年健全育成三戸大会での講演会、放課後子ども教室、わくわく城山楽園など開催している。今後も保護者が家庭教育を行うための学習機会や情報の提供に努め、公民館事業の充実を図る。





映像配信

山田 将之 議員



Q1 道の駅さんのへについて

「道の駅さんのへ」は国道4号沿いに位置し、週末を中心に多くの客でにぎわうほか、11ぴきねこファンにも名所となっている。町の観光の玄関口である道の駅について2点質問します。

- ① 駐車場が狭いという声があるが、対策や今後の整備計画はあるか。
- ② 令和元年12月定例会で、道の駅を拠点に交流人口増加を図るべきと質問したが、その後の考えは。

A 松尾町長

① 混み合う時期は、警備員の配置やパークゴルフ場の駐車場の利用を促すなどしている。駐車場の整備に関しては、具

体的な計画はない。  
② 11ぴきのねこグッズの品目増や、道の駅オリジナルグッズの販売強で交流人口の拡大を図っている。

広域的取り組みとして期待したレンタサイクルは、事業者の撤退等で実現していないが、町所有の電動アシスト自転車を活用した取り組みを進めている。

再質問①

パークゴルフ場までの歩道整備や階段の見直しを考えてはどうか。

A 建設課長

すぐできる対策として、歩道には注意喚起の看板を設置する。階段は傾斜角を緩める、踊り場を設けるなどの対策を検討する。

Q2 デジタル化の推進について

行政のデジタル化により、手続きがネットで完結するだけでなく、中山間地域対策や教育、介護、子育て、福祉など、多くの効果が期待できるため、全町民が便利で活力ある生活を実現できる「誰一人取り残さないデ

ジタル社会の実現」が重要と考えることから、デジタル化の推進について3点質問します。

- ① マイナンバーカードの普及状況と推進について
- ② 押印廃止に向けた準備や取り組み状況について
- ③ 行政手続きのオンライン化に向けた取り組み状況について

A 松尾町長

① 5月1日時点での交付件数は2383件で交付率は24.1%。県内16番目の交付率である。

国のマイナポイント事業や広報での取得メリットの周知で令和2年度交付件数は860件と過去最高となったため、今後も周知を進める。

② 国と同様の押印見直しを今年度中に実施するための基準を5月末に作成した。今後この基準を基に「押印」「署名」を規定するすべての条例・規程を洗い出し、廃止の可否や代替手段の検討、例規の改正作業を進める。

③ 国では、令和4年までに全自治体で、マイナンバーカードによるオンライン手続きを可能とするよう整備する計画

である。町も国の動向を捉え、かつ県の電子申請サービスの活用などオンライン化を進める。

再質問①

マイナポイント事業が終了した後の普及促進に向けた取り組みはあるか。

A 松尾町長

今後、保険証や運転免許証との一体化が進むなど、マイナンバーカードを持つことのメリットが増えていくため、これを広報やホームページで周知していく。

Q3 ふるさと納税返礼品について

町のふるさと納税返礼品は、3月に電子感謝券、5月は「11ぴきのねこ」シリーズ第14弾「へんなねこ」のぬいぐるみが登場し話題となったほか、地元の農畜産物や加工品など多くのラインナップがあり、県内の市町村の中でも人気となっている。この返礼品について2点質問します。

① 電子感謝券の利用できる店舗数と利用数、また今後の展開

について。  
② 「11ぴきのねこ」シリーズの返礼品の製作を請け負う町内事業者の数について。

A 松尾町長

① 電子感謝券を利用できる店舗は4店舗で、利用実績は2件である。今後も町内事業者に導入を呼びかけ、寄付者の利便性向上に努める。

② これまで当町が発表した11ぴきのねこ特製お礼品は、町と著作権管理者のこぐま社と協議し、承認をいただいた県外事業者に依頼している。これ以外に返礼品に採用している町内事業者自ら企画販売している商品は、練り切りや缶バッジなど、9事業者の14商品となっている。

再質問①

今後、町内業者を育成し、お礼品制作を依頼する考えはあるか。

A まちづくり推進課長

こぐま社が認めるクオリティーや、まとまった数量の確保も必要となるため、町の返礼品開発の補助金を利用し、実績を積み重ねることで、特製返礼品の製作につながっていくと考える。



藤原 文雄 議員



Q1 防災・消防体制の充実強化について

町民の生命と財産を守り、安全・安心を確保するため、本町では地域防災計画をはじめとする各種計画に基づく防災体制の整備が進められているが、地域防災の中核的な役割となる消防団については、社会的構造の変化に対応した、より効率的な活動運営を図る必要がある。

また、町内には複数の民間福祉施設があり災害発生時に混乱が予想されることから、町の防災・消防体制について質問します。

- ① 消防団組織の再編及び強化策、検討状況と今後の方針について。
- ② 消火栓、防火水槽等消防水利についての現状と課題、今後の整備計画はあるか。

- ③ 大規模災害時における物資調達等についての準備状況は。
- ④ 火災発生時における町内福祉施設（児童・障害者・高齢者）での避難所や、避難誘導等についての町の対応は。

A 松尾町長

① 第3次三戸町行政改革実施計画では、消防団の統廃合を令和2年度までに検討することになっているため、昨年度住民アンケートを実施した。アンケートでは統廃合による団員減少を不安視する意見もあり、消防団に諮ったところ、きめ細やかな防災の維持のため、統廃合は慎重に進めることとなった。

強化策としては、今年度、総務省から貸与される消防ポンプ車の配置、排水ポンプやボート等の水害用機材を整備し、災害に強い町づくりを進める。

② 現在消火栓245基、防火水槽105基のほか、状況により河川等の自然水利を利用してはいる。

町中心部はおまつり広場と青森銀行付近に送水管を設置している。消火栓の新設は八戸圏域

水道企業団と協議しながら進めており、昨年度は新設2基、修繕1基。防火水槽の修繕は1基である。

課題は取水箇所が集中し、水位が低下した際の河川等から取水する場所の確保と定期的な水利点検等の対応があることから関係団体と情報共有を図る。

③ 町では県の災害備蓄指針をふまえ、アルファ米やライスクッキー1516食、500ml飲料水1968本、毛布352枚、非常用寝具55セット、段ボールベッド40台、段ボール間仕切り50セット、簡易テント40台、サーキュレーター1扇風機15台など備蓄している。

これに加え、県内自治体のほか山梨県南都町や身延町、盛岡市、遠野市、二戸圏域、久慈圏域、友好都市の牧之原市といった関係自治体、民間ではユニバース、サンデー、町内の石油燃料販売業者9社と物資調達の協定を締結している。

④ 町では、町内福祉施設で大規模火災が発生した際には、地域防災計画に基づき、町職員、消防団、自主防災組織な

どが指定緊急避難場所への誘導を行うことにしている。

今後も火災が発生した場所や状況を考慮し、対応していく。

再質問①

現在団員数が10名を切る分団はあるか。

A 防災危機管理室長

基本団員の場合4個分団あるが、災害支援員を含めると1個分団のみである。

再質問②

消防団の再編というのは簡単なものではないが、町が一生懸命消防車両の購入を進めているにもかかわらず、その車両が動かない事態があつては少人数の分団が自身の狭い思いをする。これを含めて再編の議論は終わったわけではなく、これから進むというところでよいか。

A 防災危機管理室長

今後の再編については、今の段階で答えが出たわけではない。今後も分団や町内会の意見を伺いながら、再編を検討していきたいと考えている。

再質問③

消火栓、防火水槽などの消防水利について、防火水槽の修理が1か所あるということだが、防火水槽の耐久性の診断はどのように行われるのか。

A 防災危機管理室長

年に1回消防署に依頼し、消火栓及び防火水槽の点検を行っていたらいている。

再質問④

河川を水利として使用するための特に関冬の整備状況はどのようにになっているのか。

A 防災危機管理室長

冬場は除雪車が入っていないところは除雪してもらい、また分団の見回りにより除雪をお願いしている状況である。



総務文教常任委員会による調査の様子



映像配信

栗谷川柳子 議員



Q1 熊原川沿い(関根川原)の桜の今後について

熊原川沿いの関根川原地区において、県による堤防延長工事が予定されている。

熊原川の氾濫による洪水から地区の住民の安全を守る計画であり、大雨のたびに氾濫を心配する周辺住民からは「これで少し安心できる」という声が聞かれる。

一方で、この工事の作業上必要となる桜の伐採については、これを惜しむ声も多く聞かれる。熊原川沿いの桜並木は、眺めに来る方が年々増え、町内外の方が橋の上から眺めたり撮影したりしている。桜の季節に限らず、秋の紅葉、初雪のころにはまるで冬の桜が咲いたように美しく、これぞ城下町三戸の景観というにふさわしい場所である。

町の第5次総合振興計画には「観光産業化に力を入れる」とある。川沿いの桜並木を名所として加えられれば、城山や道の駅、パークゴルフ場に観光客が来るだけでなく、町なかにも寄って歩いてもらえる仕掛けづくりの1つになり得るほか、11ぴきのねこ石像めぐりのルート上にもあり、すぐ近くの「関根の松」への誘導にもつながる。

堤防延長工事の完了後に、町の景観づくりとして桜を植え、町の観光名所として育てていく考えはないか。

A 松尾町長

県では馬淵川と熊原川の浸水被害解消のため、平成26年から河川改修工事を行っている。

関根川原地区の桜並木はちょうど護岸工事の用地上にあり、今後工事中前までに伐採される。

今後の景観保護のための植樹について県から、樹木の根の張り出しや倒木による堤防の破損木の根の腐食で発生する空洞化が護岸の安定性に影響を与えるため許可できないとの回答を得ている。

関根川原の桜並木は住民の憩いの場、隠れた桜の名所として

認知されてきたが、住民の安全保護の面から必要やむを得ない措置であるため、ご理解いただきたい。

再質問①

川原橋歩道橋から関根橋の間はできないが、関根橋から黄金橋、留ヶ崎橋はどうなのか。黄金橋の擬宝珠（まぼ珠）の存在感も増すと思うが。

A 建設課長

県に確認したところ、同じ河川改修であるため、許可できないとの回答である。

再質問②

非常に残念だが承知した。今回の質問の本質は、城下町三戸町ならではの桜の美しい景観を生かして整備することである。

校章に採用されたり、さくら姫コンテストが開催されたりと昔から桜を大切にしてきた。川沿いは仕方がないが、町の中で桜の景観を生かし、育てる考えはないか。

A 松尾町長

昨今の気象変動の中では、住民の安全と安心を守るためには一切の例外なく、安全対策のため

めにしっかりと護岸に手を入れるということだが、町内で候補地を探して切った桜の代わりに何か植える事業ができればとも考えている。場所の検討の際には皆さんの協力をお願いしたい。

再質問③

第5次三戸町総合振興計画にも、観光産業化に力を入れるとあるが、今後の町の景観づくり

として、町なかの観光名所を育てていく考えはあるか。

A まちづくり推進課長

現在、11ぴきのねこエンジンジョイアプリを作成し、アプリ登録の承認を待っているところである。このアプリを使えば、町の紹介やナビ検索など、町なかの名所を巡ることができると、これを活用して誘導する仕組みを考えたい。



伐採される関根川原の桜並木



佐々木和志 議員



Q1 県立三戸高等学校の存続に対する支援について

三戸高校は地域に欠かすことのできない公立高等学校である。三高の存続には、学校自体の魅力向上と、それに伴う生徒数の増加が不可欠であり、そのためさらなる支援策の拡充が必要と考えることから、これに關し3点答弁を求めらる。

- ① 三八地域の高校統廃合の現状と、今後の見とおしをどう捉えているか。
- ② 通学費補助について、町外だけでなく町内の生徒も対象にしてはどうか。
- ③ 特色性に富む学校にするため、さらなる積極的な支援策を提言すべきでは。

A 慶長教育長

① 県は令和5年度から9年度

の県立高校統廃合計画である青森県立高等学校改革推進計画第2期実施計画案を作成中で、7月に実施計画案を公表し、県内6地区での懇談会等を経て10月に策定予定である。

昨年知事らへ三高存続を求める要望書と1万1473筆の署名を提出したほか、3回にわたる三八地区意見交換会でも三高の重要性を再三訴えてきたことから、今後も存続する見通しと考えている。

- ② 町内はコミュニティバスがあるため対象外としていたが、町内でもバス路線外で保護者に送迎の負担が生じている事例については、状況を把握し、参考にする。
- ③ 今年度は生徒の進路達成支援、部活動振興事業も補助対象とした。引き続き魅力のある高校として存在感を示せるよう支援策を提言したい。

A 松尾町長

③ ふるさと納税の活用事例や、全国募集など独自の取り組みでの成功事例がある。

町もこれまでの補助に加え、魅力化のための予算を増やし、引き続き学校魅力化推進委員会と町の協議を通じ、

選ばれる学校になるよう支援策を提案したい。

再質問①

現在、高校を選ぶ主導権は子どもにあり、子どもにとって三高がどう映るかが問題であり、三戸中から12人しか進学しない事実は深刻に受け止めるべき。違うアプローチとして、七戸町が七戸高校内に公営塾を設ける説得力のある事業のように、町が強く提言し、実際に支援策を事業化する考えはないか。

A 松尾町長

三高へはさまざまな要請、協議をしているが、県立高校なので、三戸町だけでなく周囲も見での判断となる。その中で可能なものを積み重ねたのが現在事業化しているものである。今後とも協議を進め、来たいと思える学校運営をしてみようよう説明していく。

再質問②

地元からの進学率を上げる、20人にするなどの覚悟を持った事業展開をすべきではないか。

A 教育委員会事務局長

教育長が三戸小中校長時は、

三高からのアピールが少ない印象を受けたとのことである。今年度から文理探求と未来探求の2コース制になり、素晴らしいリーフレットを作ったが響いてないので、しっかりアピールするようにお願いしたい。



1学級の地域校となった三戸高校

Q2 空き家対策について

人口流出や減少により、町内の空き家の増加が大きな問題となりつつある。解体処分に多額の経費がかかるため、放置せざるを得ない所有者もおり、何らかの対策の必要性を感じることから、これについて2点答弁を求めらる。

- ② 空き家の利活用によるまちづくりや、中心街活性化の取り組みを検討してはどうか。

A 松尾町長

① 倒壊や窓ガラスの飛散で危険な空き家は、現地確認し、所有者の費用により修繕、撤去してもらっている。

今後国や県の支援策や、連携中枢都市圏の空き家ワーキンググループに参加しての情報収集に努める。

- ② 空き家の活用については、平成29年からの空き家バンク事業で17件成約に至っている。また、平成30年からの空き家店舗活用事業で3店舗が開業し、活性化が図られている。

再質問①

空家等対策特別措置法では空家対策計画を立てれば撤去等の事業費の5割を国が負担するため、早急に取り組むべきと考えらるかどうか。

A 総務課長

町内の危険家屋の把握により件数が少なければ、町の財源や過疎債の活用もありうるが、国の施策の情報収集も今後行っていききたい。

- ① 倒壊の危険や景観等の観点から、家屋の解体費の助成を検討してはどうか。

# 議決結果一覧

議案番号	件名	議決月日	議決結果
報告 第3号	令和2年度三戸町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について 【概要】議場音響設備等改修業務委託料など、令和2年度予算13件を令和3年度へ繰り越すもの。		町長 報告済 (6月4日)
議員提案 第1号	三戸町議会会議規則の一部を改正する規則案 【概要】議員の出産に伴う産前産後の議会欠席期間を規定するほか、請願手続きの押印の義務付けを署名または記名押印とするものなど。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第30号	新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した三戸町国民健康保険被保険者等に係る国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】新型コロナにより収入が減少した国保世帯に対する国保税の減免措置を令和3年度も継続するもの。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第31号	三戸町手数料徴収条例の一部を改正する条例案 【概要】法改正によりマイナンバーカードの再交付手数料は地方公共団体情報システム機構が定めることになったため、当該条例の規定を削除するもの。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第32号	三戸町介護保険条例の一部を改正する条例案 【概要】新型コロナの影響で収入が著しく減少した第1号被保険者の保険料減免措置を令和3年度も継続するもの。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第33号	青森県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び青森県市町村総合事務組合規約の変更について 【概要】十和田地区肉食処理事務組合の解散により、当該組合を構成する地方公共団体数の減少と規約の変更について議会が議決するもの。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第34号	青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び青森県市町村職員退職手当組合規約の変更について 【概要】十和田地区肉食処理事務組合の解散により、当該組合を構成する地方公共団体数の減少と規約の変更について議会が議決するもの。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第35号	三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて 【概要】9月末で任期を迎える工藤茂夫氏の再任のため推薦するもの。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第36号	令和3年度三戸町一般会計補正予算(第1号) 【概要】歳入歳出ともに1075万円を減額するもの。歳入の主なものは繰入金1528万円の減額など。歳出の主なものは人事異動に伴う職員人件費2357万円の減額など。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第37号	令和3年度三戸町営簡易水道事業特別会計補正予算(第1号) 【概要】歳入歳出ともに220万円増額するもの。歳入の主なものは繰入金226万円の増額。歳出の主なものは総務管理費(事業費)226万円の増額。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第38号	令和3年度三戸町介護保険特別会計補正予算(第1号) 【概要】歳入歳出ともに167万円を増額するもの。歳入の主なものは繰入金167万円の増額。歳出の主なものは介護保険システム改修委託料209万円の増など。	6月9日	原案可決 (全会一致)
報告 第4号 (追加提案)	専決処分した事項の報告について(和解及び損害賠償の額を決定することについて) 【概要】町内公衆用道路において、段差により自家用車のバンパーを損傷した件の国家賠償法上の損害賠償の責任が町に生じたため、その額2万6565円を専決処分したもの。	6月9日	町長 報告済 (6月9日)
議案 第39号 (追加提案)	三戸町防災行政無線等整備工事に係る工事請負契約の締結について 【概要】老朽化が進む防災行政無線の更新工事について、落札した日本電気株式会社青森支店と4億5803万円を契約締結するため議会の議決を求めるもの。	6月9日	原案可決 (全会一致)
議案 第40号 (追加提案)	副町長の選任につき同意を求めることについて 【概要】馬場浩治氏の再任について議会の同意を求めるもの。	6月9日	原案同意 (全会一致)
議案 第41号 (追加提案)	令和3年度三戸町一般会計補正予算(第2号) 【概要】歳入歳出それぞれ1072万円を増額するもの。歳出の主なものは、子育て世帯生活支援特別給付事業や秋まつり山車組等持続化支援金。	6月9日	原案可決 (全会一致)

# 議案審議

## 山車組等持続化支援金事業を継続

### 秋まつり中止で2年連続

#### 主な議案と質疑

##### ■ 議案第39号

三戸町防災行政無線等整備工事に係る工事請負契約の締結について

Q. 栗谷川 柳子 議員

新聞報道にあった、入札の執行に当たり入札者間で談合があったかどうか、確認を取ったうえでの決定なのか。

A. 総務課長

調査を実施した結果、談合の事実はないということ、落札者を決定した。

##### ■ 議案第41号

令和3年度三戸町一般会計補正予算(第2号)

#### 子育て世帯生活支援特別給付金

Q. 小笠原 君男 議員

子育て世帯生活支援特別給付金の給付はいつから始まるのか、スケジュールを聞かせてほしい。

A. 住民福祉課長

7月の下旬に申請が不要な支給対象者へ通知をし、それから8月上旬に申請が必要な対象者の申請受付を開始し、8月中旬をめどに給付を開始したいと考えている。

#### さんのへ秋まつり山車組持続化支援金

Q. 佐々木 和志 議員

来年の秋まつりが盛大に行われるよう内容を充実する、もしくは他のイベントを行うなどの取り組みを、今から関係機関と協議していくべきと考えるが、そのような取り組み

みはできるか。

A. 松尾町長

さんのへ秋まつりの復活の思いは強く持っているが、来年度のこととなると、ワケチン接種が進み状況がどうなるのか、法が定める第1種伝染病としての扱いがどうなるのかまだまだ見とおせないため、早い情報収集に努めて秋まつり復活に力を入れたい。

Q. 山田 将之 議員

昨年度山車を制作した団体が赤字だったため今年度はできないかもしれないとの声が聞かれたが、今年度も同じ額とした根拠、理由は。

A. まちづくり推進課長

昨年度10万円を7町内会に出し、1町内会が山車の制作とお披露目を行い、他はおはやしの練習や備品の購入に充てたと報告されている。

昨年各町内がそれぞれ10万円の金額の工夫して実施していたのだが、2年連続で中止となった今年度、町としては物品購入よりも、来年の山車運行がスムーズにできるよう、おはやしの練習を重点的に考えていきたいと考え、昨年度と同額にしたものである。



昨年のおはやし発表のようす

##### ■ 議案第35号

三戸町人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

任期を迎える工藤茂夫委員を引き続き委員として推薦するもの。全会一致で可決。



工藤茂夫 委員

##### ■ 議案第40号

副町長の選任につき同意を求めることについて

任期を迎える馬場浩治副町長を、引き続き副町長として選任するもの。全会一致で同意。



馬場浩治 副町長

# 議員活動レポート



Facebook

## 総務文教常任委員会

山田 将之・千葉 有子  
小笠原君男・越後 貞男  
佐々木和志

### 消防団の管理運営状況について

5月21日、町消防団の運営や設備等の管理状況について、第6分団（細谷）、9分団（遠藤）、14分団（大舌）、18分団（貝守）、19分団（杉沢）の屯所を訪問し、調査を行いました。



#### 【主な調査結果、意見等】

#### ①総務省から無償提供される消防車両について

総務省から無償貸与される予定の消防車両については、その機能や装

備が有効に活用されるよう、消防審議会や消防団など関係機関と十分検討していただきたい。

#### ②消防設備等の配備について

消火栓などの消防水利、消防用ホースやジェットシューターなど、消防活動に直接関わる施設や物品は、しっかりと配備するようにしていきたい。

#### ③町中心部の消防について

熊原川の自然水利を活用できる連結送水管の増設を検討してほしい。

## 民生商工常任委員会

藤原 文雄・栗谷川 柳子  
柳 隼 圭太・乗上 健夫  
竹原 義人

### 保育関連施設の管理運営状況について

5月18日、町内の保育施設の管理運営状況を調査するため、認定こども園ミューズ保育園、認定こども園いずみ幼稚園、三戸保育園の3施設を訪問し、運営状況や困っていることなどを伺いました。

#### 【主な調査結果、意見等】

各施設とも特色があり、また職員の数、部屋の数等についても基準を満たし、適切に運営されているが、若い保育士の確保が大きな課題となっている。

各施設からの要望事項は以下のとおりである。

- ①ミューズ保育園
  - ・特になし。
- ②いずみ幼稚園
  - ・園入口前の側溝のふたが劣化し、鉄筋が露出して危険なため交換を。
  - ・幼稚園から六日町町内会館へ抜ける道路の早期開通を。
- ・幼稚園前道路をスピードを出して



走る車が多いとの苦情が寄せられるため、注意喚起の看板設置を。

- ・国道4号の信号を以前の場所へ移設を。

#### ③三戸保育園

- ・早朝から子どもを預けに来る保護者もいるため、積雪時の園周囲の除雪に配慮を。
- ・自然災害時の園児の安全確保のため、町との連絡連携について配慮を。

## 建設農林常任委員会

久慈 聡・番屋 博光  
和田 誠・澤田 道憲

### 町公共工事及び冬期道路の管理運営状況について

5月14日、現在公共工事が進められている現場や、町民からの要望や苦情が多い道路、冬期間の道路の維持管理、除雪等の状況について、現場を訪問して調査しました。

【主な調査結果、意見等】

①国道下平交差点・町道バイパス線改良工事について

国道下り線への右折レーンの整備、信号機の設置及び急勾配の解消により交通事故もなく、渋滞も削減されており、利便性と安全性の向上が図られていた。

ここは南部町と三戸町との境界付近であることから、町のPRのため交差点付近へ町の案内看板の設置を検討していただきたい。

②熊原川（関根川原地区）護岸工事について

工事の着工及び工事によりサクラの木が伐採され、景観がかわることを、広報等で十分に町民へ周知を。

③その他

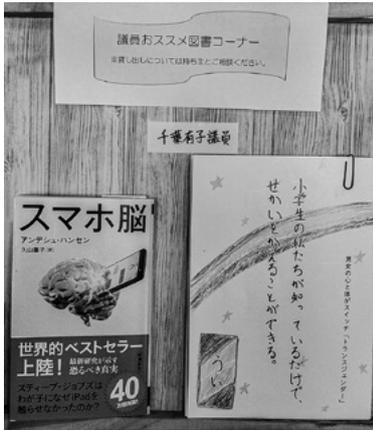
町公共工事については、順調に進んでおり、冬期の道路管理状況も良好であった。



図書運営委員会

千葉 有子・柳雫 圭太  
和田 誠・番屋 博光

6月14日、議員活動の参考資料等となる図書が収められている議会図書室の運営について話し合うため、図書運営委員会が開催されました。



会議では年2回発行している図書室だよりの執筆者を、9月を千葉委員、来年3月を柳筆委員に決定したほか、議員個人の本を他の議員に紹介したいという要望があったため、議員のオスマメ図書コーナーの設置が決定されました。

広報編集委員会

山田 将之・久慈 聡  
栗谷川柳子・藤原 文雄  
佐々木和志・竹原 義人

6月14日、議会だよりの編集を行う広報編集委員会が開催されました。会議では、6月議会についてお知らせする議会だよりの構成について話し合われたほか、より町民に読んでもらえる議会だよりにするため、議員が写真撮影やインタビューを行うことで作成する新コーナーを新しく設けることになりました。



三戸町活性化対策特別委員会役員会

栗谷川柳子・山田 将之  
柳雫 圭太・千葉 有子  
久慈 聡・佐々木和志  
竹原 義人

6月14日、町が抱える喫緊の課題について調査し、対策を考える三戸町活性化対策特別委員会の役員会が開催され、今年度の委員会の運営について話し合われました。昨年度決定した3つのテーマについて、新型コロナウイルスの影響で先進地の

視察等ができず、調査が滞っていることから、今年度は実施できることから少しでも進めていくため、下記について活動することにしました。

①城山の活用について

城山の活用に関する意見書、提案書を作成し、委員会で同意が得られたら早期に提出する。

②新農産物加工センターについて

建設費について、過疎債のほかに補助等ないのか調査をし、建設が可能になった場合すぐに取り掛かれるよう計画はしておかなくてはならないことから、担当課と協議を行う。

③宿泊施設について

金田一のカダルテラスの視察ができないまま、①、②、③を総合して、二戸市の九戸城のボランティアガイド視察と、同時に小松製菓の2dolorが見せ方が上手な施設なので視察して参考にしたい。



# 請願陳情 審査結果

## 請願とは？

国や地方公共団体に対してお願いをすること。日本国憲法でその権利を保障しており、議会が受理します。請願をする場合には請願を提出する議会の議員の紹介が必要です。

## 陳情とは？

請願同様、特定事項に利害のある住民が公共団体等に実情を訴え、適切な措置を求めるもの。法による保障はなく、紹介議員も必要ありませんが、住民の声として請願と同様に対応しています。

## 意見書とは？

法に基づき、地方公共団体の公益に関することについて、議会の意思を文書化したもので、これを国会や関係省庁などに提出します。

# 陳情第2号

## 安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための陳情

### 【陳情の要旨】

コロナ禍から国民のいのちと健康、暮らしを守るため、①医療、介護、福祉への十分な財源確保。②地域の声をふまえた医療体制の充実。③医療従事者や介護職の大幅増員。④公衆衛生行政の拡充やウイルス研究、検疫体制の強化。⑤社会保障の国民負担の軽減の5項目を要望する意見書を国へ提出してほしい。

### 【民生商工常任委員会の意見】

陳情内容はもともとである。

### 【審査結果】

採択

## 町民、各種団体の皆さまへのお願い

政治家はごく一部の例外を除き、お招きいただいた会合へ出席する際、ご祝儀をお渡しすることは公職選挙法違反となります。飲食を伴う会合等の議員への案内状や招待状には、会費を明記していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

## 第497回三戸町議会定例会（9月議会）予定 ※全日程10時から

9月2日(木)	開会、町長による議案提案理由の説明
9月3日(金)	議案熟考のため休会
9月4日(土)、5日(日)	休日のため休会
9月6日(月)	一般質問
9月7日(火)	一般質問(予備日)、議案審議・採決
9月8日(水)	決算特別委員会
9月9日(木)	決算特別委員会、本会議、閉会

※新型コロナウイルス感染症予防のため、傍聴者数の制限を行っています。ご了承ください。

## 編集後記

コロナ禍が長期化する中、町民の皆さまのご苦労も多いことと思いますが、町のワクワクン接種も進み、希望の光も見えてきたように思います。

われわれ議員の活動も制約を受けておりますが、役割を果たすため、前向きな議論を進めています。その中でも、町民との交流会開催を見合わせていることから、皆さんの声を聞かせていただくため、現在アンケート調査を実施しております。ぜひご協力をお願いいたします。

議会だよりも新たに町民登場ページを設け、今回は「お城へ行こう！in三戸城」の参加者を対象に記事を掲載いたしました。今後も継続しますので、ぜひご意見をお聞かせください。

(竹原義人)

三戸町議会広報編集委員会  
委員長 山田将之  
副委員長 久慈聡  
委員 栗谷川柳子  
藤原文雄  
佐々木和志  
竹原義人

